

メッセージ 2 和解の務め

聖書：ローマ 5:10. コロサイ 1:20. IIコリント 5:18-20

ローマ 5:10 というのは、わたしたちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。

コロ 1:20 そして、彼を通して万物を、すなわち、彼を通して、地にあるもの天にあるものをご自身に和解させ、彼の十字架の血を通して、平和をつくられたのです。

和解の務め (委託)	IIコリ 5:18 これらすべてのものは、神から出ています。彼はキリストを通して、 わたしたちをご自身に和解させ、その和解の務めを、わたしたちに与えてくださいました。
世の人と神の和解 (第一歩)	IIコリ 5:19 すなわち、神はキリストにあって、 世の人をご自身に和解させ、 彼らに対して彼らの違犯を数えないで、和解の言をわたしたちに託されたのです。
信者と神の和解 (第二歩)	IIコリ 5:20 ですから、わたしたちはキリストのために大使であり、いわば 神がわたしたちを通して、あなたがたに懇請しておられるのです。 わたしたちはキリストに代わって、あなたがたに懇願します。神に和解させられなさい。
完全に神と和解する	IIコリ 5:21 神は罪を知らなかった方を、わたしたちに代わって罪とされました。それは、 わたしたちが彼の中で神の義となるためです。

和解の理解	I	わたしたちは和解に対しての基本的な理解を持つ必要があります(必要、意義、手段、手続き、範囲、領域、事実、経験)		
和解の務め 委託 二段階 遂行	II	キリストの大使として、和解の務めを遂行する	A-B	キリストの大使として、和解の働きを遂行します
			C-F	和解の務めを遂行する二つの段階
			G-H	完全に和解させられることで、ますます人を和解させることができます
	III	和解の務めの遂行	A-C	罪を知らなかった方を、わたしたちに代わって罪とされました
			D-E	わたしたちはキリストの中で神の義とされます
	IV	二段階の和解は、幕屋と二つの幕で描写されています:すなわちキリストがわたしたちの為に死なれたこと、わたしたちに代わって死なれたことです。		
和解の結果	V	わたしたちの心が広げられる: 人の違犯を赦し、それを忘れることができる		
	VI	神に対して平和を持ち、神の中で勝ち誇り、神の命の中で救われる		
	VII	神性と人性の拡大された宇宙的な合併となり、新エルサレムとなります		

(朝ごとの食物)第二週		和解の務め	
日	段落、流れ	主題	要点
1	和解の理解 和解の委託	和解の理解と和解の務めの委託	和解の基本的な理解 和解の務めを委託
2	務め 二段階 遂行	わたしたちが和解の務めを遂行するには、神に完全に和解させられる必要があります	わたしたち自身が神と和解させられるなら ますます人を神に和解させることができます
3		キリストがわたしたちに代わって罪とされ、わたしたちを神の義に構成されます	キリストが十字架上でわたしたちの身代わりとして死なれた キリストは復活の中で、わたしたちを神の義に構成します
4		和解の務めは、わたしたちを実際において神の義とさせます	和解の務めは、わたしたちを神の義とさせます 神の義となることを実際に経験する
5		和解の二つの段階は、幕屋の二つの幕によって明確に描写されています	第一の幕は和解の第一段階を予表します 第二の幕は和解の第二段階を予表します
6		結果	神へと完全に和解させられることの結果

結びの言葉	
自分自身が神と和解させられ、人と神と和解させる	
自分自身が神と和解させられる	神の義となることを経験する
人を神と和解させる	福音、牧養、とりなし

和解の基本的な理解を持つ

I. わたしたちが**和解の基本的な理解**を持つことは助けになります:

必要、意義、手段、手続き、範囲、領域、事実、経験

- A. 和解の必要—敵意、敵—ローマ 5:10. コロサイ 1:21。
 コロ 1:21 かつてあなたがたは神から離れていて、悪い行ないのために、あなたがたの思いの中で敵であったのですが、
- B. 和解の意義—平和を作る—20 節. IIコリント 5:18。
- C. 和解の手段—キリスト—コロサイ 1:20. IIコリント 5:18。
- D. 和解の手続き—十字架—コロサイ 1:20. エペソ 2:16。
 エペソ 2:16 また十字架を通して、両者を一つからだの中で神に和解させるためでした。それによって敵意を殺してしまったのです。
- E. 和解の範囲—天と地にある万物—コロサイ 1:20。
- F. 和解の領域—一つからだの中で—エペソ 2:16。
- G. 和解の事実—法理的な贖いと信仰による義認に基づく神の御前でのわたしたちの地位—ローマ 5:10。
- H. 和解の経験—一つ霊の中で御父へと近づく—エペソ 2:18。
 エペソ 2:18 それは、わたしたち両者がキリストを通して、一つ霊の中で、御父へと近づくことができるためです。

II—III: 和解の務め—委託、二段階、完成

キリストの大使として、和解の務めを遂行する

II. 新契約の奉仕者たちはキリストの大使として、和解の務めを遂行します—IIコリント 5:18-20. 6:1:

II コリ 6:1 そしてわたしたちは、神と共に働きながらあなたがたに懇請します。神の恵みを無駄に受けることがないようにしなさい。

A-B:キリストの大使として、和解の働きを遂行します

- A. キリストの大使は、宇宙における最高の権威である神を代行する者です。
- B. 使徒たちはキリストによって権威が与えられて、彼を代行し、和解の働きを行ないました—5:18, 20。

C-F:和解の務めを遂行する二つの段階

- C. 和解の務めは、罪人を神へと連れ戻すことだけではなく、信者たちを絶対的に神の中へともたらして、彼らを絶対的に神と一にすることです。
- D. 人が神へと完全に和解させられるためには、二つの段階が必要となります：
1. 第一段階は、罪人を罪から神に和解させることです—19 節：
 - a. この目的のために、キリストはわたしたちの罪のために死にました。それは、わたしたちが赦されるためです—Iコリント 15:3。
 I コリ 15:3 わたしが受けて、あなたがたにも伝えたことは、まず第一に、キリストが聖書にしたがって、わたしたちの罪のために死なれたこと、
 - b. キリストは十字架上でわたしたちの罪を担いました。それは、わたしたちの罪が神によって裁かれるためです—Iペテロ 2:24。
 I ペテ 2:24 わたしたちが罪に死んで、義に生きるために、彼はわたしたちの罪を、ご自身の体において、木の上で担われました。その方の打たれた傷によって、あなたがたはいやされたのです。
 2. 第二段階は、天然の命の中で生きている信者たちを、肉から神に和解させることです—IIコリント 5:20：
 - a. この目的のために、キリストはわたしたちという人に代わって死にました。それは、わたしたちが復活の命の中で、彼に生きるためです—14-15 節。
 II コリ 5:14 なぜなら、キリストの愛がわたしたちに押し迫っているからです。そこでこう判断しました。ひとりの方がすべての人のために死なれたからには、すべての人が死んだのです。
 II コリ 5:15 そして、彼がすべてのために死なれたのは、生きている者が、もはや自分自身にではなく、彼らのために死んで復活させられた方に生きるためです。
 - b. キリストはわたしたちに代わって罪とされました。それは、罪が裁かれて、除き去られるためです—21 節. ローマ 8:3。
 II コリ 5:21 神は罪を知らなかった方を、わたしたちに代わって罪とされました。それは、わたしたちが彼の中で神の義となるためです。
 ローマ 8:3 律法が肉のゆえに弱くて、なし得なかったので、神は、ご自身の御子を罪の肉の形で、罪のために遣わし、肉において罪を罪定めされました。

E. わたしたちは和解の務めを遂行しようとするなら、十字架につけられたキリストと一体化される必要があります—IIコリント 4:10-12. 5:14. ガラテヤ 2:20. 5:24。

IIコリ 4:10 絶えずこの体に、イエスの致死力が働いています。それはまた、イエスの命が、わたしたちの体に現されるためです。

IIコリ 4:11 なぜなら、わたしたち生きている者はイエスのために、絶えず死に渡されているからであり、それはイエスの命が、わたしたちの死ぬべき肉体に現されるためです。

IIコリ 4:12 こうして、死はわたしたちの中で働き、命はあなたがたの中で働くのです。

IIコリ 5:14 なぜなら、キリストの愛がわたしたちに押し迫っているからです。そこでこう判断しました。ひとりの方がすべての人のために死なれたからには、すべての人が死んだのです。

ガラ 2:20 わたしはキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです。そしてわたしは今、肉体の中で生きているその命を、わたしを愛し、わたしのためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。

ガラ 5:24 しかし、キリスト・イエスのものである人たちは、肉をその情と欲と共に十字架につけてしまったのです。

F. コリント人は依然として肉の中で生きていました。すなわち、魂、外なる人、天然の存在の中で生きていました—Iコリント 3:1. 2:14:

Iコリ 3:1 兄弟たちよ、わたしはあなたがたに、霊の人に対するようには語る事ができませんでした。むしろ肉の人に対するように、キリストにある幼子に対するように語りました。

Iコリ 2:14 しかし魂の人は、神の霊の事柄を受け入れません。なぜなら、彼にとって、それは愚かであるからです。また彼は、それを知ることができません。それは、霊によって識別されるものだからです。

1. 肉、天然の人という幕は、彼らを神から分離しました。
2. パウロは働いて、肉である分離する幕を切り刻んでいました。それによってコリントの信者たちは至聖所の中へと入ることができました—ヘブル 10:19-20。

ヘブル 10:19 こういうわけで、兄弟たちよ、わたしたちはイエスの血によって、大胆に至聖所へ入ります。

ヘブル 10:20 それは、彼がわたしたちのために、彼の肉体である幕を通して、一つの新しい生きた道を開設してくださったからです。

G-H:完全に和解させられることで、ますます人を神に和解させることができます

G. わたしたちは神に完全に和解させられるときはじめて、完全に救われます—IIコリント 6:1-2. ローマ 5:10. ヘブル 7:25。

IIコリ 6:1 そしてわたしたちは、神と共に働きながらあなたがたに懇請します。神の恵みを無駄に受けることがないようにしなさい。

IIコリ 6:2 なぜなら、彼は言われるからです、「受け入れられる時に、わたしはあなたに聞き、救いの日に、わたしはあなたを助けた」。見よ、今は喜んで受け入れられる時です。見よ、今は救いの日です。

ローマ 5:10 というのは、わたしたちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。

ヘブル 7:25 こういうわけで、彼を通して神に進み出る者たちを、彼は極みまで救うことができます。なぜなら、彼はいつも生きていて、彼らのためにとりなしておられるからです。

H. わたしたちがどれほど人を神にもたらし、また神の中へともたらすことができるかは、わたしたちと神との関係がどうであるかによって常に測られます。わたしたちは神の中にいればいるほど、ますます人を和解させて神の中へともたらすことができます—IIコリント 12:12 前半. 5:20。

IIコリ 12:12 まことに、使徒のしるしは、あなたがたの間で、しるしと不思議と力あるわざとによって、忍耐を尽くして現されました。

IIコリ 5:20 ですから、わたしたちはキリストのために大使であり、いわば神がわたしたちを通して、あなたがたに懇請しておられるのです。わたしたちはキリストに代わって、あなたがたに懇願します。神に和解させられなさい。

和解の務めの遂行

III. 和解の務めは、わたしたちを神へと連れ戻して、わたしたちがキリストの中で神の義となるようにします—IIコリント 5:21:

IIコリ 5:21 神は罪を知らなかった方を、わたしたちに代わって罪とされました。それは、わ

たしたちが彼の中で神の義となるためです。

A-C: 罪を知らなかった方を、わたしたちに代わって罪とされました

A. わたしたちは神によって義とされるだけではありません(ガラテヤ 2:16)。わたしたちは実は神の義となるのです。

ガラ 2:16 それでも、人が義とされるのは、律法の行ないに基づいてではなく、イエス・キリストにある信仰を通してであることを知って、わたしたちもキリスト・イエスの中へと信じたのです。それは、律法の行ないに基づいてではなく、キリストにある信仰に基づいて義とされるためです。なぜなら律法の行ないに基づいてでは、いかなる肉も義とされないからです。

B. キリストが十字架上でわたしたちの身代わりとして死なれた時、神は彼を、罪を担う者と考ただけでなく、罪そのものと考えました。今やキリストは復活の中で、命としてわたしたちの中へと入って来ます。この命はわたしたちの内側で生きており、わたしたちを構成して神の義とならせます。

C. キリストは身代わりとして、わたしたちのために罪とされました。今やわたしたちは、彼が構成することによって、彼の中で神の義となります—IIコリント 5:21:

1. 「彼の中で」という語句が意味するのは、単に地位的ではなく、復活の中で有機的にキリストとの結合の中にあるということです。
2. キリストが十字架上で死なれた時、神はわたしたちのために、肉において彼を罪として罪定めしました(ローマ 8:3。ヨハネ 3:14)。それはわたしたちが、彼の復活の中で彼と一になって、神の義となるためです。ですから、キリストとの有機的な結合の中で、わたしたちは神の義とされています。

ローマ 8:3 律法が肉のゆえに弱くて、なし得なかったので、神は、ご自身の御子を罪の肉の形で、罪のために遣わし、肉において罪を罪定めされました。

ヨハネ 3:14 そして、モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければならない。

D-E: わたしたちはキリストの中で神の義とされます

D. キリストの中で神の義となることは、わたしたちの存在において神に対して正しくあるという事柄です。これは、透明で水晶のように明瞭な内なる存在を持つことです。すなわち、神の思いと意志の中にある内なる存在を持つことです—IIコリント 5:21。

E. コリント人への第二の手紙は、信者たちが神へと完全に和解させられることと、和解の方法としてのキリストを啓示しています。

二段階の和解は、幕屋と二つの幕で描写されています:

キリストがわたしたちの為に死なれたこと、わたしたちに代わって死なれたことです。

IV. 和解の二つの段階は、幕屋の二つの幕によって明確に描写されています—出 26:31-37。ヘブル 9:3:

出 26:31 また、あなたは青色と紫色と緋色の撚り糸、また撚り合わせた細糸の亜麻布で垂れ幕を作らなければならない。それに巧みな職人のわざで、ケルビムを織り出さなければならない。

出 26:32 それを、金で覆われたアカシア材の四本の柱にかけ、それらの鉤は金とし、四つの銀の台座の上に据えなければならない。

出 26:33 その垂れ幕を留め金の下にかけ、その垂れ幕の内側に、証しの箱を運び入れなければならない。その垂れ幕は、あなたがたのために聖所と至聖所を分離する。

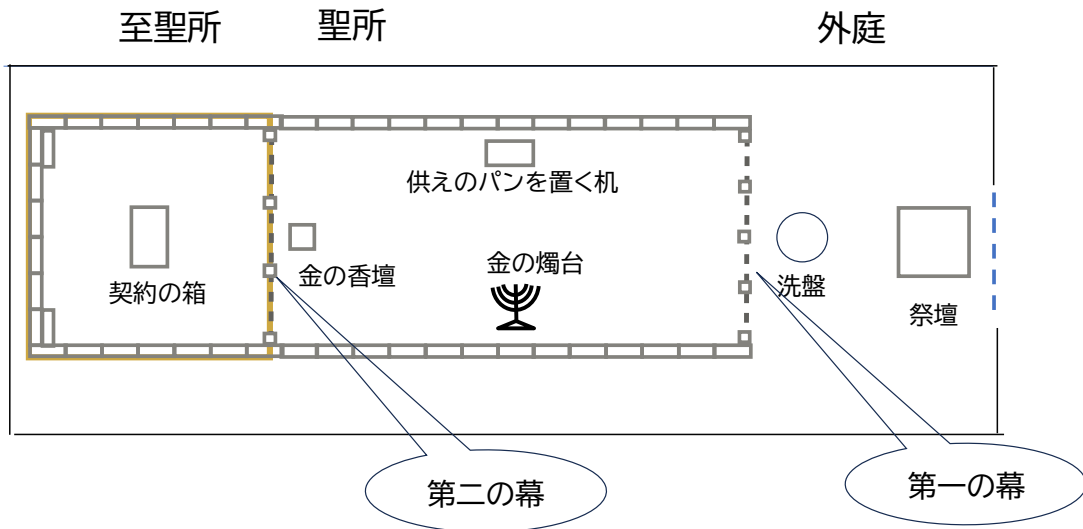
出 26:34 あなたは罪を覆う蓋を、至聖所にある証しの箱の上に置かななければならない。

出 26:35 そして、机を垂れ幕の外側に置き、燭台を幕屋の南側で机と向かい合わせなければならない。机を北側に置かななければならない。

出 26:36 また、あなたは天幕の入り口のために、青色と紫色と緋色の撚り糸、また撚り合わせた細糸の亜麻布で、刺繍職人のわざによってとばりを作らなければならない。

出 26:37 そのとばりのために、アカシア材の五本の柱を作り、それを金で覆わなければならない。その鉤は金であり、それらのために青銅の台座を五つ鑄て作らなければならない。

ヘブル 9:3 また第二の幕の後ろにある幕屋は、至聖所と呼ばれています。



- A. いずれの幕も唯一のキリスト、すなわち、わたしたちの罪のために、またわたしたちのために
に死なれたキリストを表徴します。
- B. 第一の幕は「とばり」と呼ばれています—出 26:36-37 :
1. 罪人は、なだめの血による和解を通して神にもたらされ、とばりを通過することによって聖所の中へと入りました。
 2. このことは和解の第一段階を予表します。
- C. 第二の幕 (31-35 節. ヘブル 9:3) はなおも罪人を、至聖所の中にある神から分離していました :
- ヘブル 9:3 また第二の幕の後ろにある幕屋は、至聖所と呼ばれています。
1. この幕は裂かれる必要がありました。それは罪人が至聖所の中にある神にもたらされるためでした—マタイ 27:51. ヘブル 10:19-20。
 マタイ 27:51 すると見よ、宮の垂れ幕が上から下まで真二つに裂けた。そして地が揺れ動き、岩が裂け、
 ヘブル 10:19 こういうわけで、兄弟たちよ、わたしたちはイエスの血によって、大胆に至聖所へ入ります。
 ヘブル 10:20 それは、彼がわたしたちのために、彼の肉体である幕を通して、一つの新しい生きた道を開設してくださったからです。
 2. これは和解の第二段階を予表します。

わたしたちの心が広げられる： 人の違犯を赦し、それを忘れることができる

V. 神へと完全に和解させられることは、わたしたちの心が広げられるようにします

—IIコリント 5:20. 6:11-13:

- II コリ 5:20 ですから、わたしたちはキリストのために大使であり、いわば神がわたしたちを通して、あなたがたに懇請しておられるのです。わたしたちはキリストに代わって、あなたがたに懇願します。神に和解させられなさい。
- II コリ 6:11 コリント人よ、わたしたちの口はあなたがたに向かって開かれており、わたしたちの心は広くされています。
- II コリ 6:12 あなたがたは、わたしたちの中で狭くされているのではなく、自分の心の深みの中で狭くされているのです。
- II コリ 6:13 わたしは、子供たちに対するように語りますが、それに応じて、あなたがたも心を広くしてください。

- A. わたしたちの心がどれほど広いかは、わたしたちがどれほど神に和解させられているかにかかっています。
- B. 心の狭さは、わたしたちが部分的にしか神に和解させられておらず、またわたしたちの救いの割合がとても低いことの強いしるしです—2 節. ローマ 5:10.
 II コリ 6:2 なぜなら、彼は言われるからです、「受け入れられる時に、わたしはあなたに聞き、救いの日に、わたしはあなたを助けた」。見よ、今は喜んで受け入れられる時です。見よ、今は救いの日です。
 ローマ 5:10 というのは、わたしたちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。

C. わたしたちが人の違犯を赦し、それを忘れることができるなら、それはわたしたちが広げられた人、広い心を持つ人となったしるしです—マタイ 18:21-35。 エペソ

5:21. コロサイ 3:13。

マタイ 18:21 その時、ペテロが来てイエスに言った、「主よ、わたしの兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか？ 七回まででしょうか？」。

マタイ 18:22 イエスは彼に言われた、「わたしはあなたに七回までとは言わない、七回を七十倍までと言う。

マタイ 18:23 こういうわけで、天の王国は、王が奴隷と清算するようなものである。

マタイ 18:24 王が清算し始めると、一万タラントの負債のある者が、王の所に連れて来られた。

マタイ 18:25 しかし、彼は返済するすべがなかったので、主人は彼に、自分も妻も子供たちも、持っているすべての物も売って、返済するように命じた。

マタイ 18:26 そこで、その奴隷はひれ伏し、拝して、『どうか待ってください。必ず全部お返ししますから』と言った。

マタイ 18:27 すると、その奴隷の主人はあわれに思って、彼を釈放し、その負債を免除した。

マタイ 18:28 ところが、その奴隷は出て行くと、自分に百デナリの負債のある奴隷仲間の一人を見つけたので、彼を取り押さえ、のどを絞めて、『借金を返せ』と言った。

マタイ 18:29 その奴隷仲間はひれ伏してお願い、『どうか待ってくれ、必ず返すから』と言った。

マタイ 18:30 しかし彼は承知せず、行って、その人が借金を返すまで、獄に投げ込んだ。

マタイ 18:31 彼の奴隷仲間たちは、その起こったことを見て、非常に悲しみ、そして来て、起こったことすべてを残らず彼らの主人に説明した。

マタイ 18:32 そこで、主人は彼を呼びつけて言った、『悪い奴隷だ。あなたがわたしにお願いしたから、わたしはすべての負債を免除してやったのだ。

マタイ 18:33 わたしがあなたをあわれんだように、あなたも奴隷仲間をあわれむべきではなかったか？』

マタイ 18:34 こうして主人は怒って、負債をすべて返すまで、彼を獄吏に引き渡した。マタイ 18:35 あなたがたもそれぞれ、心から自分の兄弟を赦さないなら、わたしの天の父も、あなたがたにこうされる。

エペソ 5:21 キリストを畏れつつ、互いに服従し合いなさい。

コロ 3:13 もしだれかが、他の人に対して不満を抱くことがあっても、互いに忍び合い、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも赦すべきです。

D. わたしたちは、狭い心と広い心との間の対比に印象づけられる必要があります。

神へと完全に和解させられることの結果

神に対して平和を持つ、神の中で勝ち誇る、命の中で救われる

VI. 以下は和解の結果です：

A. 神に対して平和を持つ：

1. わたしたちが神に和解させられることの結果は、神に対して平和を持つことです—ローマ 5:1。

ローマ 5:1 こういうわけで、わたしたちは信仰によって義とされているので、わたしたちの主イエス・キリストを通し、神に対して平和を持っています。

2. わたしたちは神に和解させられ、神に対して平和を持っているので、平和の道を歩いています。これが、わたしたちが神に和解させられることの結果です。

B. 神の中で勝ち誇る：

1. わたしたちは神に和解させられることの結果として、神の中で勝ち誇ることができます—11節。

ローマ 5:11 それだけではなく、今やわたしたちの主イエス・キリストを通して神との和解を受け、さらに彼を通して神の中で勝ち誇りながら、彼の命の中で救われるのです。

2. わたしたちは主イエス・キリストを通して神に和解させられているので、神の中で勝ち誇り、歎息し、栄光を帰します。

3. わたしたちはまた神の栄光の望みの中で勝ち誇ります—2節。

ローマ 5:2 またその方を通して、わたしたちもいま立っているこの恵みの中へ信仰によって入ることができ、そして神の栄光の望みのゆえに勝ち誇っています。

4. このことは、わたしたちが神に和解させられることの結果でもあります。

C. 神の命の中で救われる：

1. わたしたちは神に和解させられることの結果として、彼の命の中で救われつつあります—10節。

ローマ 5:10 というのは、わたしたちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。

2. この命の中で救われることはまた、わたしたちが神に和解させられることの結果でもあります。

神性と人性の拡大された宇宙的な合併となり、新エルサレムとなります

VII. 和解の務めを通してわたしたちは、手順を経て究極的に完成された三一の神の中へと合併され、

キリストの中で、神性と人性の拡大された宇宙的な合併となります。その結果、わたしたちは神の聖なる所、神の住まい、神の至聖所、すなわち新エルサレムとなります—ヨハネ 14:20、23。啓 21:2、10、16。

ヨハネ 14:20 その日には、わたしがわたしの父の中におり、あなたがたがわたしの中におり、わたしがあなたがたの中にいることを、あなたがたは知るであろう。

ヨハネ 14:23 イエスは彼に答えて言われた、「だれでもわたしを愛する者は、わたしの言を守る。そしてわたしの父は彼を愛され、わたしたちは彼の所へ行って、彼と共に住まいを造る。

啓 21:2 わたしはまた聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように整えられて、天から出て神から下って来るのを見た。

啓 21:10 そして彼はわたしを霊の中で、大きな高い山へ連れて行き、聖なる都エルサレムが、天から出て神から下って来るのをわたしに見せたが、

啓 21:16 都は正方形であり、その長さとは幅は同じである。彼がその葦で都を測ると、一万二千スタディアであり、その長さとは幅と高さとはみな等しい。